

## MR（麻しん風しん混合ワクチン）の予防接種について

この予防接種は、予防接種法に基づき、乳幼児期に麻しん・風しんの免疫を得るために実施するものです。必ず、本紙をよく読んでから、委託医療機関で接種を受けてください。

### 対象者

I 期：生後12か月から生後24か月に至るまで（2歳の誕生日の前日まで）の間にある者

II 期：5歳以上7歳未満で小学校就学前1年間にある者（対象年度の5月頃郵送します）

1歳の誕生日前に予診票を送付する方もいます。接種時期にご注意ください。

### 接種回数と間隔

I 期1回：生後12か月から生後24か月に至るまで（2歳の誕生日の前日まで）

II 期1回：小学校就学前1年間の対象年度内

（詳細は、5月に送付されるMR II期の予診票をご覧ください）

### 病気の概要

#### ○麻しん

麻しんは、「はしか」とも呼ばれ、麻しんウイルスの空気感染・飛沫感染・接触感染によって発症します。ウイルスに感染後、無症状の時期（潜伏期間）が約10～12日続きます。その後症状が出始めますが、主な症状は、発熱、せき、鼻汁、めやに、赤い発しんです。症状が出始めてから3～4日は38℃前後の熱とせきと鼻汁、めやにが続き、首すじや顔などから赤い発しんがみられ、その後発しんは全身に広がります。高熱は3～4日で解熱し、次第に発しんも消失しますが、しばらく色素沈着が残ります。

合併症を引き起こすことが30%程度あり、主な合併症には、気管支炎、肺炎、中耳炎、脳炎などがあります。発生する割合は麻しん患者100人中、中耳炎は約7～9人、肺炎は約6人です。脳炎は約1,000人に1人の割合で発生がみられます。

また、麻しんにかかると数年から10数年経過した後に亜急性硬化性全脳炎（SSPE）という重い脳炎を発症することがあります。これは、麻しんにかかった者のうち約10万人に1人の割合で見られ、1,000人に1人程度の割合で死亡することがあります。

#### ○風しん

風しんは、風しんウイルスの飛沫感染によって発症する熱性発疹性感染症で、流行期には春先から初夏にかけて多く患者発生がみられます。ウイルスに感染後約14～21日の潜伏期間がみられ、淡い色の赤い発しん、発熱、首のうしろのリンパ節が腫れるなどが主な症状として現れます。子どもの場合、発しんも熱も3日程度で治ることが多いので「三日ばしか」と呼ばれることがあります。合併症として関節痛、血小板減少性紫斑病、脳炎などが報告されています。血小板減少性紫斑病は風しん患者約3,000人に1人、脳炎は風しん患者約6,000人に1人ほどの割合で合併します。大人になってからかかると子どもの時より重症化する傾向が見られます。

妊婦が妊娠早期に風しんにかかると、先天性風しん症候群と呼ばれる病気により、心臓病、白内障、聴力障害などの障害を持った赤ちゃんが生まれる可能性があります。

## 副 反 応

予防接種は、重篤な病気の発生や流行の阻止に大きな成果をあげていますが、ごくまれに副反応をおこすことがあります。

〈主な副反応〉

- ◎過敏症：接種直後から数日中に発熱、発疹、そう痒等があらわれることがあります。
- ◎全身症状：発熱・発疹が接種後13日以内に多くみられます。
- ◎局所症状：発赤、腫脹、硬結等があらわれることがあります。

稀に生じる重い副反応としては、アナフィラキシー様症状（ショック症状、じんましん、呼吸困難など）、血小板減少性紫斑病（紫斑、鼻出血、口腔粘膜の出血等）、急性散在性脳脊髄炎（ADEM）、脳炎・脳症及びけいれん等が報告されています。

定期の予防接種の副反応により、医療機関での治療が必要になったり、生活に支障がでるような障害を残すなどの健康被害が生じた場合には、予防接種法に基づく補償を受けることができます。

## 注 意 点

- (1) 予防接種は健康な人が元気な時に接種を受け、その病原体の感染を予防するものです。体調の良い時に受けることが原則です。お子さんの体調をよく理解した保護者がお連れください。
- (2) 予防接種を受けることができない人
  - ① 明らかに発熱（通常37.5度以上）している人
  - ② 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかなる人
  - ③ 予防接種等によりひどいアレルギー反応を起こしたことがある人
  - ④ その他、医師が不適当な状態と判断した場合
- (3) 予防接種を受けるに際し、主治医とよく相談しなくてはならない人
  - ① 心臓病・腎臓病・肝臓病や血液、その他慢性の病気で治療を受けている人
  - ② 過去の予防接種2日以内に発熱・発疹等のアレルギーを思わせる異常がみられた人
  - ③ 過去にけいれんをおこしたことがある人
  - ④ 免疫不全があると指摘されたことがある、及び近親者に先天性免疫不全症の人がいる人
  - ⑤ ワクチンの成分に対して、アレルギーをおこすおそれのある人
- (4) 予防接種を受けた後の一般的注意事項
  - ① 副反応の多くは1週間以内に出現しますので、この間は体調に十分注意しましょう。
  - ② 入浴は差し支えありませんが、注射部位を強くこすることはやめましょう。
  - ③ 接種当日はいつもどおりの生活をしてかまいませんが、激しい活動は避けましょう。

<問い合わせ先>

子育て支援課 0774-64-1377(直通)

